

コロナに負けるな！ みやぎを元気に！！

これからインフルエンザなどの感染症も流行する時期が到来するため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に一層備える必要があります。

一方で、観光業や飲食業、農林水産業は大きな打撃を受けており、県民一丸となって産業の回復に向けて立ち向かっていかねばなりません。感染症対策を徹底しながら、経済の回復に向けて、県民の皆さんにはより一層のご協力をお願いします。

流行期に備えた県の コロナへの体制は？

PCR等検査体制の拡充

県は、今年1月30日から保健環境センターで新型コロナウイルス感染症のPCR検査を開始しました。公益社団法人宮城医師会の協力も得ながら、1日最大240件の検査が可能となり、10月8日までに、仙台市と合わせて1万1240件の

10月8日時点の情報を掲載しています。新型コロナウイルス感染症に関する各種お知らせは21ページをご覧ください。



検査を行ってきました。帰国者・接触者外来は36医療機関に設置されており、このうち19医療機関では、ドライブスルー方式により検体採取を行っています。



PCR検査の様子

これからの流行期に備えて、次のとおり検査体制のさらなる強化を図っています。

- ・保健環境センターにおける新たな検査機器の導入、検査担当職員の育成
- ・大学、医療機関、民間検査機関における検査、機器整備の支援
- ・抗原検査の活用
- ・医療機関による民間検査機関の活用推進
- ・検査協力医療機関の拡充による検体採取能力の強化

これらの取り組みにより、現在想定されている県内ピーク時の1日約1160件の検査需要に対応できるよう、引き続き仙台市をはじめとする関係機関と連携していきます。

みやぎアラートによる 入院病床の機動的な確保

7月13日から、感染者数や病床占有率に応じて必要な医療提供体制の指標を表す「みやぎアラート」の運用を始めています。感染拡大の兆候がある場合には、必要な病床数を機動的に確保できるよう医療機関と連携しながら対応しています。

医療機関との連携による 医療提供体制のさらなる強化

万が一新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明した場合には、感染症法に基づき、指定された施設で療養することになります。

県は、新型コロナウイルス感染症患者の入院病床数について、当初の感染症病床29床から拡大し、患者が増加した今年4月には約100床程度を確保しました。また、専門的知見や県内の医療機関の状況などに基づく医師の意見・助言の下で迅速な入院につなげています。

今後の流行に対応するために、県内主要病院長会議や宮城県調整本部会議を開催し、病床の確保を進めています。また、無症状や軽症の患者が療養する宿泊療養施設も確保しており、患者が安心して療養できる体制を整えています。

健康相談窓口(コールセンター) 24時間対応

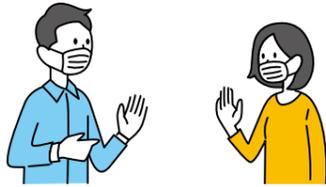
☎022(211)3883、022(211)2882
聴覚や言語に障害のある方専用
FAX 022(211)3192 ※24時間対応
メール sodan-corona@pref.miyagi.lg.jp
(仙台市外にお住まいの方)
sodan-corona@city.sendai.jp
(仙台市内にお住まいの方)
月曜日～金曜日(祝日を除く)
午前8時30分～午後5時15分

日頃からの感染症対策にご協力ください

監修：東北大学病院検査部 吉田真紀子助教

新型コロナウイルス感染症の流行に備えるためにも、基本的な感染症対策(こまめな手洗いや手指消毒、咳エチケット、会話時のマスクの着用、人との距離の確保)や3密を避けるなどの「新しい生活様式」の実践・定着が一層重要となります。

日常生活の中に感染リスクを高める恐れのある行動が潜んでいるので、日頃から感染症対策の徹底を心掛けましょう。



日常生活において感染リスクを高める恐れのある行動の例

1. 不特定多数の人が触るところに触れた後、手を洗わないまま顔に触れたり、食事をしたりする
2. 換気が悪く、不特定多数の人が密集、密接する場所に行く
3. マスクを外し、手が届く距離で大声で会話する
4. 大皿料理を複数人で直箸で食べる、飲み物の回し飲みをする



手洗いの5つのタイミング

- 外出から帰ったとき
- 咳やくしゃみ、鼻をかんだとき
- ごはんをつくる前、食べる前、食べた後
- 病気の人のケアをしたとき
- 不特定多数の人が触れるものをつれたとき

(厚生労働省ホームページを参考に作成)

ご家庭で消毒が必要となった場合は

【準備物】

- ① 消毒液(濃度0.05%の次亜塩素酸ナトリウム)、② タオル(使い古しでも良い)やペーパータオル、③ 使い捨て手袋、④ マスク、⑤ ゴミ袋、⑥ 手指消毒用アルコール(もしあれば)



【消毒液(濃度0.05%の次亜塩素酸ナトリウム)の作り方の例】
商品パッケージにも作り方が記載されている場合があります

塩素系漂白剤 原液濃度5%*	500mLのペットボトル1本の水に原液5mL (ペットボトルのキャップ1杯)
-------------------	---

*商品によって塩素濃度が異なるのでご確認ください。

【消毒手順】

吹きかけではなく必ず拭き取りで消毒しましょう

- ① ゴミ袋を広げておく
- ② 換気のために窓を開放する
- ③ マスク、使い捨て手袋を装着し、消毒液を作る
- ④ タオルやペーパータオルを絞れる程度まで消毒液でぬらし、丁寧にゆっくりと一方向に拭く(往復しない)
- ⑤ 拭き終わったタオルやペーパータオルはその都度ゴミ袋に入れる(再利用しない)
- ⑥ 脱色・腐食の可能性があるものは、水拭きする
- ⑦ マスク、使い捨て手袋を外し、ゴミ袋に廃棄
- ⑧ 手指消毒を行う(手指消毒用アルコールがない場合は流水による手洗い)



インフルエンザにも気をつけて!!

インフルエンザは毎年12月から3月にかけて流行し、感染すると、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴といわれています。

県内では、過去10年においては、毎年平均2万5千人以上が感染しています。

- 手洗いや手指消毒、マスクの着用などの咳エチケット、適切な湿度(50~60%)の保持、人混みや繁華街への外出を控える、睡眠などの十分な休養とバランスの取れた栄養摂取などの健康管理等に取り組んでください。
- 予防接種は、感染を完全に防ぐものではありませんが、重症化を防ぐのに一定の効果があるといわれていますので、ご相談ください。



☎ 疾病・感染症対策室 ☎ 022(211)2632



25年後を見据えて

皆さんは今後、宮城県の人口が急激に減少することをご存知でしょうか？現在の宮城県の人口は約229万人ですが、25年後の2045年には約180万人になるといわれています。たった25年間で約49万人(約21%)も人口が減るのです。平均すると毎年約2万人が減っていく計算になります。現在の七ヶ浜町の人口が約1.8万人であることを考えると、経済(消費)に与える影響がどれだけ大きいかわかりいただけだと思います。

今まで宮城県は何度も大きな災害に見舞われてきましたが、その復旧・復興は人口が増えることを前提にしていました。その大前提がこれからは崩れるのです。不都合な真実と言っても過言ではありません。飲食店等の方々からは、今回のコロナ禍の「前」と「現在」で、平均して20~30%売り上げが減っていると伺うことがあります。これは25年後の宮城の姿だとも言えるのです。もちろん、今回のコロナ禍は急激な変化でしたので、すぐに十分な対応ができないのはやむを得ませんが、私は25年後に人口が2割以上減ることを見据え、「将来まで生き延びることができる体力をつけるためにはどうすれば良いのか」を考える、大きなきっかけになったと前向きに捉えています。

県は新型コロナウイルス感染症対応方針を策定し、国と歩調を合わせながら、ウイルスの感染拡大を防止するとともに、地域経済を回復させるという二兎を追う方向に舵を切りました。コロナ禍を革新のチャンスと捉え、25年後も持続的に成長する県経済の礎を作りたいと思います。

宮城県知事 村井 嘉浩

宮城を元気にしよう!

県内の観光施設やサービスを利用したり、地元の商品を購入したりすることで、事業者や生産者の支援につながります。この機会に宮城の魅力に改めて触れてみてはいかがでしょうか。



観光

仙台・宮城すずめのお宿キャンペーン実施中

県内の小規模な宿泊施設の宿泊料金の2分の1(最大5000円)が割引になります。割引対象となるお宿やキャンペーンの詳細は特設ウェブサイトに掲載しています。ご予約は、直接宿泊施設にお申し込みください。

☎観光課 ☎022(211)2895

特設サイトはこちら



観光

日帰りバスツアーの感染症対策を支援

県内を周遊する日帰りバスツアーについて、旅行者の皆さんに安心して利用してもらえるよう、貸し切りバスの感染症対策について支援しています。新しいバスツアーのスタイルで県内を巡ってみてはいかがでしょうか。

☎観光課 ☎022(211)2755



農林水産

県産品を購入できる通販サイト開設中

インターネット通販サイト「楽天市場」に、宮城県産の農林水産物や加工品のお買い物を楽しめる特設ページを開設しました。特設ページでは「食材王国みやぎ」が誇る多くのアイテムを紹介するほか、県産品が割引で購入できる期間限定クーポンを配布します。クーポンは無くなり次第終了となりますので、この機会に「県産品との新たな出会い」を楽しみましょう。

☎食産業振興課 ☎022(211)2815

特設サイトはこちら



店舗や施設、イベントの感染症対策を推進しています

県は、一定の基準を満たした感染症対策を講じている店舗・施設・イベント等であることを県民の皆さんにお示しする「新型コロナ対策実施中ポスター」などを発行し、感染症対策を推進しています。

感染拡大の抑制と、社会経済活動の維持の両立を図るためには、しっかりと感染防止対策を実施することが重要です。各事業者の皆さんは、感染拡大防止と店舗・施設利用・イベント参加の促進のため、ぜひこの取り組みにご協力ください。(対象事業者別に5種類あります。)

※この取り組みは、事業者の自己申告によりポスターなどを発行するものです。県が公認し、安全を保証するものではありませんのでご了承ください。



新型コロナ対策に取り組んでいる宿泊施設を取材しました

(株式会社ホテル佐助)

新しい取り組みとその反響は

入り口での検温システムや、フロントでのアクリル板の設置のほか、大浴場では人数制限をしたり、ビュッフェ会場では席数を減らして1.5m以上間隔を開け、手袋・マスク着用などを徹底したりしています。

換気方法一つをとっても、お客様から「感染症対策が足りない」「そこまでなくていい」など、全く異なる意見をいただきます。お客様によって事情やコロナへの認識が異なるので、全員が納得できる方法が難しく、また、それは当然とも思います。できるだけ丁寧に説明し、ご理解いただくしかありません。ご理解いただいた上で、万全の対策を取ってまいります。



宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合 理事長 佐藤 勤三郎さん



サーモグラフィーによる検温



ビュッフェでは手袋・マスク着用



希望者は部屋食ができる

今後考えている取り組みは

IT化をもっと推し進めないといけないと感じました。例えば、テレビやスマホによって大浴場の混雑状況がお客様自身で分かるようになるなど。ITを活用することで便利になることは、お客様の満足度を高めるために積極的にしていかなければいけません。

現在は観光キャンペーンが展開され、お客様にも来ていただけていますが、キャンペーン終了後のことが気掛かりです。これまで一部屋に大人数で泊まることは当たり前でしたが、ウィズコロナの時代ではそうではありません。一部屋の宿泊客数の制限や空気清浄機の配備など、旅館の新しい日常をどんどん提案し、常に発信していきたいと思っています。

みやぎお知らせコロナアプリ(MICA)

店舗・施設の感染拡大防止対策の支援を目的に、利用者に感染情報を発信するアプリを無償で提供しています。

☎情報政策課 ☎022(211)2476
写真は、MICAを導入しているライブハウスSENDAI GIGSの感染症対策



入場ゲートでの非接触検温



入場にはMICAの利用を促している



入場整列時は約2m間隔

お店の方 ご登録をお願いします

- ① 県ホームページから対象施設に合った入力フォームを開く
- ② 店舗名などを入力
- ③ 後日、メールで送付されるQRコードを印刷し、施設内に掲示

登録はこちらから



利用者の方 MICAの表示を見つけたら

- ① 施設に掲示してあるQRコードを読み取る
- ② メールアドレスを入力し登録
- ③ メールアドレスを登録した施設で感染者が認められた場合、感染情報が伝達される